

# 発達障害などメンタルヘルスに 配慮すべき人への支援

# 「メンタルヘルスの配慮」が必要な人の一例

## 「ひきこもり」とは

○ひきこもりとは、様々な要因の結果として、社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態。(他者と関わらない形での外出をしている場合も含む)

・ひきこもりには、確定診断がなされる前の精神障害が含まれている可能性がある。

### ＜思春期・青年期ひきこもりケースの背景にある精神障害の実態把握＞

- ・実施方法: H19～H21年度に、全国5か所の精神保健福祉センターにひきこもりの相談に訪れた16歳～35歳の方(本人の来談)184人に精神科的診断を実施(分担研究者: 近藤直司の調査による)
- ・結果: 診断の確定は約8割に当たる149人、情報不足等のための診断保留が35人
  - 第一群(統合失調症、気分障害等の薬物療法が中心となるもの)49人 (32.9%)
  - 第二群(広汎性発達障害や精神遅滞等の生活・就労支援が中心となるもの)48人 (32.2%)
  - 第三群(パーソナリティ障害や適応障害等の心理療法的アプローチが中心となるもの)51人 (34.2%)
  - 分類不能1人 (0.7%)

・背景にある精神障害の診断や治療だけではなく、ひきこもりがもたらす「自立過程の挫折」に対する支援も必要である。

出典 : H19～H21年度「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究」  
(厚生労働科学研究 主任研究者 齋藤 万比古)

## わが国の「ひきこもり」の推計数

### ＜把握の方法＞

全国11地域の住民から無作為に選択した4,134名を対象に、訓練を受けた調査員の戸別訪問による直接面接を実施。  
(平成14年～平成17年度に、世界精神保健日本調査と合同で実施)

### ＜調査の結果＞

- ・対象者のうち、20～49歳の者(1,660名)の中で、過去にひきこもりを経験したことのある者 : 1.14%
- ・面接を受けた対象者全員(4,134名)の中で、現在ひきこもり状態にある子どものいる世帯 : 0.56%  
(全国推計では約26万世帯)

出典 : H18年度「こころの健康についての疫学調査に関する研究」(厚生労働科学研究 主任研究者 川上 憲人 研究協力者 小山 明白<sup>2</sup>香)

# ひきこもり地域支援センター設置運営事業（平成21年度～）



## ひきこもり地域支援センター

- ひきこもりに特化した第一次相談窓口（相談窓口の明確化）
- ひきこもり支援コーディネーター（※）が、ひきこもりの状態にある本人、家族からの電話、来所等による相談や家庭訪問を中心とした訪問支援を行うことにより、早期に適切な機関につなぐ（自立への支援）  
※社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士 等
- 関係機関との連携（包括的な支援体制の確保）
- ひきこもりに関する普及、啓発（情報発信）

【実施主体】都道府県、指定都市（NPO等への事業委託可能）

支援



相談

ひきこもりを抱える家族や本人

**民間団体**  
家族会  
NPO法人  
民間カウンセラー

**保健医療関係**  
医療機関  
保健所  
保健センター

**教育関係**  
学校 教育委員会

**就労関係**  
地域若者サポートステーション  
ハローワーク  
障害者雇用促進関連施設

**福祉、行政関係**  
福祉事務所 市区町村窓口 地域包括支援センター 児童相談所 福祉施設 精神保健福祉センター 発達障害者支援センター 子ども・若者総合支援センター

**普及、啓発**

国

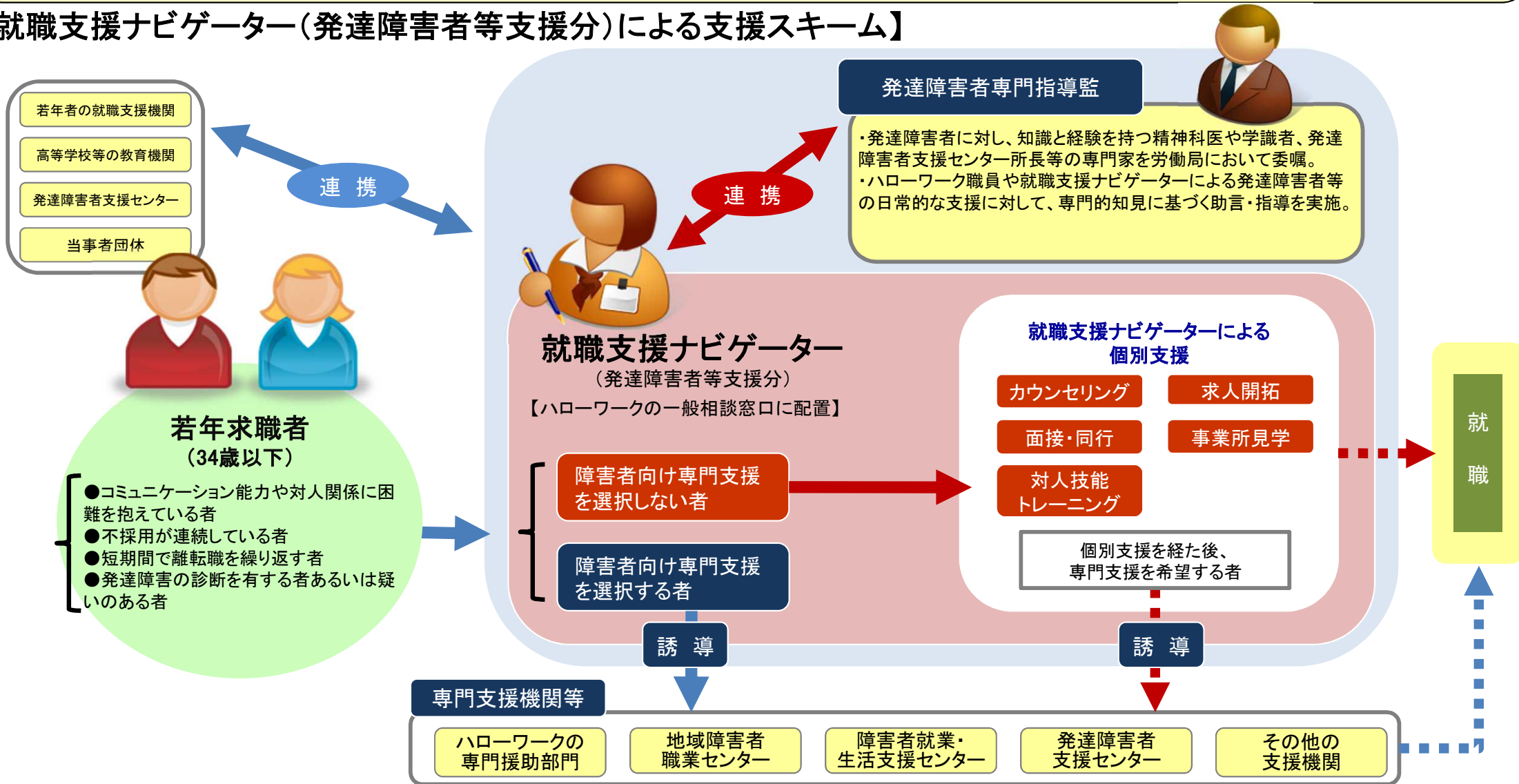
H27'末現在 ※予定含む  
64か所（60自治体）

# 若年コミュニケーション能力要支援者就職プログラム

●ニート等の若年者に対する就職支援と障害者に対する就労支援の両面から、コミュニケーション能力に困難を抱える要支援者向けの総合的な支援を行う事業を実施。

- ①若年者の就職支援を行う機関と障害者の就労支援機関の連携体制を構築。
- ②発達障害等、様々な要因によりコミュニケーション能力に困難を抱えている要支援者に対して、自らの特性と支援の必要性についての気づきを促し、適切な支援への誘導を行う。
- ③発達障害者に対する専門的支援の強化を図ること等により、要支援者のニーズに応じた適切な相談・支援を実施し、要支援者の円滑な就職の促進を図る。

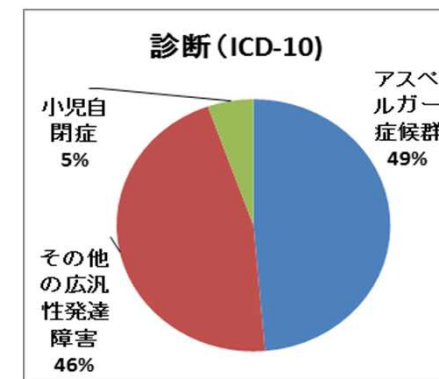
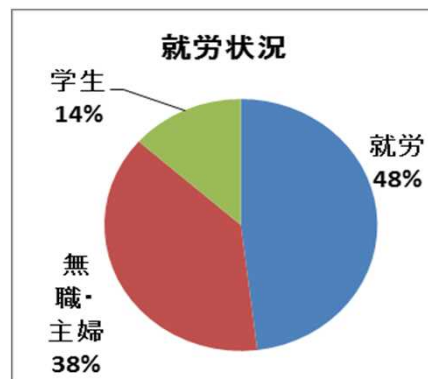
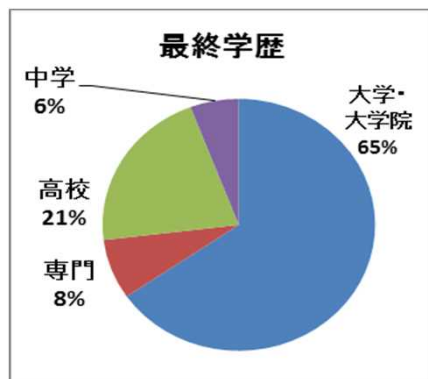
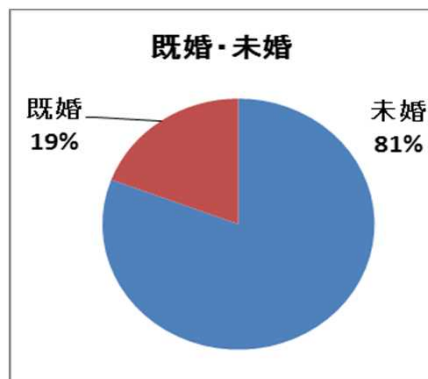
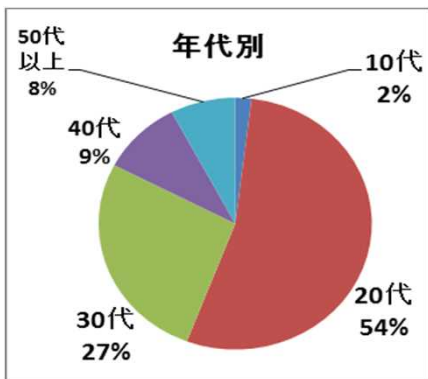
## 【就職支援ナビゲーター(発達障害者等支援分)による支援スキーム】



# 厚生労働科学研究班の試行事業として昭和大学を中心に行っている 精神科ショートケア・プログラム参加者の特徴

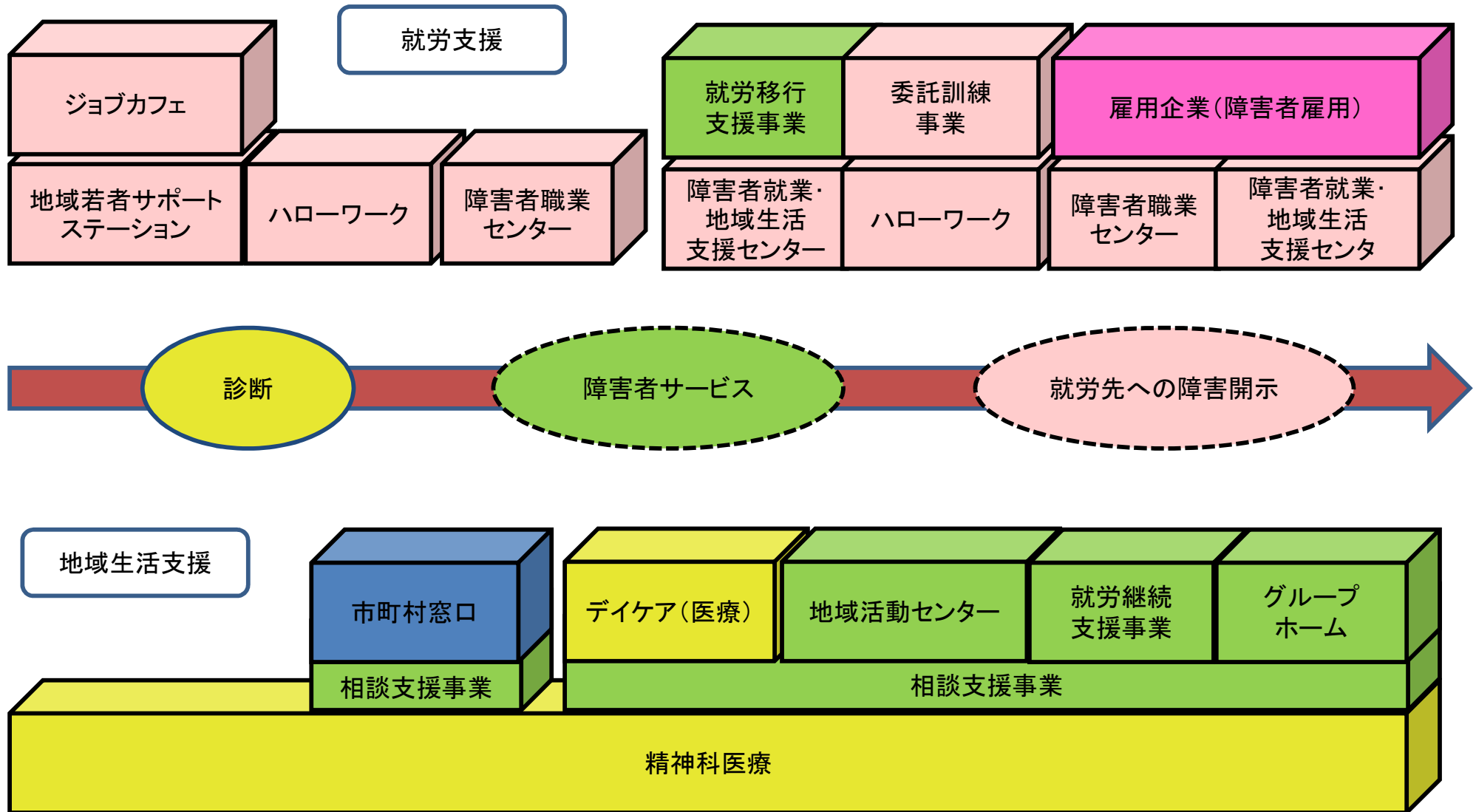
表 プログラム参加者のプロフィール

項目		プログラム参加群	非参加群	$p$
年齢 (SD)	全体	31.4 (9.1)	30.3 (8.1)	ns
	男性	30.9 (9.5)	30.4 (8.0)	ns
	女性	32.7 (7.8)	29.7 (10.8)	ns
知能指数 (SD)	全 IQ	103.2 (13.8)	104.9 (8.6)	ns
	言語性	108.0 (14.2)	110.6 (9.2)	ns
	動作性	96.4 (15.1)	96.3 (14.0)	ns



# 発達障害者自身の情報発信と支援機関の関係

参考：平成20～22年度厚生労働科学研究「青年期・成人期の発達障害者に対する支援の現状把握と効果的なネットワーク支援についてのガイドライン作成に関する研究」  
(主任研究者 近藤直司、分担研究：志賀利一)を一部改変



## <聞き取りができる場合>

- (1)適切な食事摂取    .. 激しい偏食、食事量が多すぎたり少なすぎたりする
  
- (2)身辺の清潔保持、規則正しい生活
  - .. 予定の変更がとてつらいと感じる、仕事の優先順位がつけられない、片付けが苦手
  
- (3)金銭管理と買い物    .. 計算の間違い、金銭の使い過ぎなどの失敗がある
  
- (4)通院と服薬(要・不要) .. 採血の拒否、睡眠リズムの問題がある
  
- (5)他人との意思伝達・対人関係
  - .. 冗談を真に受ける、距離感がつかめず相手を怒らせる、目についたものをすぐ口に出してしまう
  
- (6)身辺の安全保持・危機対応    .. 行動が固まる、飛び出しがある
  
- (7)社会的手続きや公共施設の利用
  - .. 人混みに入れず交通機関を利用しない、窓口で順番を待てない、名前を書く欄を間違える
  
- (8)趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動への参加
  - .. 興味関心が狭く友達がいない、人が怖くてひきこもりがち、など

## <観察する場合>

### (1)集中や注意の途切れやすさ

・・・ボーっとする、ミスが多い → 静かな環境に移動した場合はどうか、話しを細切れにしたらどうか

### (2)感覚の過敏さ

・・・音や明るさ、匂いや室温などの影響 → 本人に尋ねてみたらどう答えるか

### (3)記憶

・・・話しを最後まで聞かない、少し前に言ったことを聞き直す → 説明を細切れにして、その都度確認をしたらどうなるか

### (4)コミュニケーション

・・・声の抑揚や、敬語の使い方の特徴がある → 見本のマネをさせてみたらどうか

### (5)価値観や独特のこだわり

・・・話しが止まらない、何回も同じ話をする → ストップをかけたらどうか

### (6)文字の読み書き、手先の不器用さ

・・・名前を書き間違える、ペンの持ち方が不器用 → ゆっくりで良いことを伝える、いつもはどうしているか尋ねるとどうか



# 演習 1

□話しが長くて止まらない場合

\* ブレーキがかかったことを評価する

# 演習 2

□ 怒り出してしまった場合

\* ○の台本を提案する

# 代表的な発達障害

## それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

### 注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する(考えるよりも先に動く)

### 学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

※このほか、トゥレット症候群や吃音(症)なども発達障害に含まれます。

# インシデント・プロセス法による事例検討

## <メリット>

- 事例提出者は批判されず、たくさんのアイデアを迅速に集めることができ、仲間に支えられる体験ができる。
- 偉い人の話を聞かなければならないという雰囲気ではなく、自分が当事者になっているようなアイデアが出せる。
- アイデアを提供したことを感謝される機会 など

## <デメリット>

- 洞察力がある専門家によるスーパーヴァイズを受けるものではないので、消化不良的なものがある。

## <手順>

- ルールの説明
- メンバーの選出（事例提供者、司会、書記、検討メンバー数人）
- 事例の提出
- 情報の収集
- 視点とアイデアの提供
- ギャラリーからの補足アイデア
- 事例提供者がコメント
- おしまいの儀式